

蘇我氏の古代



[蘇我氏の古代 下载链接1](#)

著者:吉村 武彦

出版者:岩波書店

出版时间:2015-12-29

装帧:

isbn:9784004315766

大化改新前夜、クーデターによる暗殺をきっかけに「滅亡」したとされる蘇我氏。仏教導入をすすめ、推古天皇の信頼も厚く、「大臣」として政権を支えた蘇我馬子を筆頭に、ヤマト王権の紛れもない中心であった一族は、なぜ歴史から姿を消したのか？その後の藤原氏の台頭までを視野に、氏族からみた列島社会の変化を描く。

作者紹介：

吉村 武彦（よしむら たけひこ、1945年 - ）は、日本の歴史学者。明治大学文学部史学地理学科教授。専門は日本古代史。

経歴：

1945年 朝鮮・大邱に生まれる

1968年 東京大学文学部国史学科卒業

1973年 同大学院人文科学研究科博士課程中退

1973年 東京大学文学部助手

1975年 千葉大学教養部講師

1977年 千葉大学助教授

1989年 千葉大学教授

1990年 明治大学文学部教授

1997年 「日本古代の社会と国家」で東京大学文学博士

1998年 第4回茗水クラブ学術奨励賞を受賞。

著書：

『日本の歴史③ 古代王権の展開』（集英社、1991年）

『日本古代の社会と国家』（岩波書店、1996年）

『古代天皇の誕生』（角川選書、1998年）

『日本社会の誕生－日本の歴史 〈1〉』（岩波ジュニア新書、1999年）

『聖徳太子』（岩波新書、2002年）

『古代史の新展開』（新人物往来社、2005年）

『ヤマト王権－シリーズ日本古代史 〈2〉』（岩波新書、2010年）

『女帝の古代日本』（岩波新書、2012年）

共編著：

『古代を考える 繼体・欽明朝と仏教伝来』（吉川弘文館、1999年）

（安田常雄）『日本史研究最前線 現在、日本史の中になにがみえてきたか』
(新人物往来社、2000年)

（大塚初重）『古墳時代の日本列島』（大月書店、2003年）

『律令制国家と古代社会』（塙書房、2005年）

『古代史の基礎知識』（角川選書、2005年）

都城 古代日本のシンボリズム 飛鳥から平安京へ 山路直充共編 青木書店 2007.3

目录: 1 氏の誕生ー氏の名を名のる(王の名をめぐってー中国の史書から

「倭の五王」の姓と名

大伴氏と物部氏ー「職能」を名のる氏)

2 蘇我氏の登場(葛城氏と蘇我氏

蘇我氏の系譜をたどる

列島の開発と蘇我稻目

仏教の導入と馬子)

3 発展と権勢の時代(推古天皇の即位

推古朝における馬子の活躍

飛鳥の地と蝦夷・入鹿

蘇我氏と「天皇」)

4 大化改新ー蘇我氏本宗の滅亡(東アジアの情勢からみた「乙巳の変」

大化の改革と蘇我倉山田石川麻呂

生き延びる蘇我氏傍系ー七世紀後半の蘇我氏

石川氏の活躍)

5 蘇我氏から藤原氏へ(藤原氏の誕生と不比等一名負いの氏からの離脱

律令法と氏・氏族

奈良時代と藤原氏)

・・・・・ (收起)

[蘇我氏の古代](#) [下载链接1](#)

标签

歴史

评论

书到用时方恨少，感谢先生赠书。

[蘇我氏の古代 下载链接1](#)

书评

在我国古代，成为外戚是大家族能够兴旺的一大捷径。谁家女儿要是能成为皇后妃嫔，整个家族官运亨通、富贵无边都是指日可待的，所以很多官宦家族都想尽办法送家族里才貌双全的女儿进宫，以博取这样“一人得道鸡犬升天”的机会。古代的日本也是如此。大概在我国隋唐时代的同期，...

原文地址：[https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_3390730]

原文载于：《上海书评》（2019年5月）

近日赋闲在家，得《苏我氏的兴亡》一书，简单翻阅一遍，想从翻译者、历史研究者以及历史文化普及者的三个不同角度，来对这本书做一个简单的评价。草草而就，难免有挂一...

中国古代社会中，皇权、相权、外戚、宦官等几种力量相互制约，西汉时期外戚专权，以至于汉武帝制定出了立子杀母这样残酷的制度。然而这一制度并未能阻挡外戚的权力，西汉末年王莽作为外戚篡权成立的新朝，西汉王朝由此走向了灭亡。及至北魏立国，鲜卑族的拓跋氏学习汉文化，同...

[蘇我氏の古代 下载链接1](#)